Futures
INSPIRING SOCIAL INNOVATION

1st Furures Session

「社会イノベーション × サクセスフル・エイジング」

—— July. 9, 2012 (Mon)

BRITISH COUNCIL

GLOCOM FUJITSU Future Sessions

Overview

日英のセクターを超えた活動

7 月 9 日東京、高齢化社会をテーマに、日英双方でセクター横断の協調的アクションにより、社会イノベーションを起こして行こうという日本側での取り組みが始まりました。ブリティッシュカウンシル、国際大学 GLOCOM、富士通研究所の声かけにより、企業、地方自治体、社会起業家、ＮＰＯなど様々なセクターから 45 名、さらに英国側で今後 Futures を展開する Volans のアマンダ・フェルドマン氏も通訳を携えて参加しました。

フューチャーセッション

Futures の特徴は、各参加企業が主催者となってフューチャーセッションを重ねて行く、プロジェクト運営スタイルにあります。フューチャーセッションは、短い時間であっても、Step 1: 問い、Step 2: 洞察、Step 3: 関係性、Step 4: 深化、Step 5: 創発、の各段階を経て集合的叡智を生み出すようファシリテーションを行います。この日に何が生まれたのか、各ステップを追ってみましょう。

問い：フレッシュで好奇心の湧く「問い」の設定

高齢化社会の問題の困難なところは、少子化により高齢者率が尋常ではない値になるという予測など、以前より繰り返し示されてきた「聞き飽きた課題」であることだと思います。本セッションでは、私たちの社会がどう変わるのかという「予測」を捨て、「サクセスフル・エイジング社会が来ることになっている」とすれば、そこで私たちはどんな仕事をしているだろうか、と「未来思考」で考えてみることにしました。変われない理由を考えるよりも、変わってしまったとしたら、自分たちはどうなっているのだろうかを考えるのです。

洞察：ゲストによる新たな視点のインプット

花王株式会社アクティブシニア事業センター長の登坂正樹氏、大阪ガス行動観察研究所主任研究員の久保隅綾氏、Volans のアマンダ・フェルドマン氏の 3 名に、「確実に訪れる更なる高齢社会に向けて、私たちは未来をどのように創り出していけるのか？」という問いについて対話していただきました。

登坂氏は、消費材の従来の使用調査が主に 49 歳以下を対象にしていたことを挙げ、花王という会社として、高齢者に向けた新しいインクルーシブデザインに注力して行く必要性を示しました。久保隅氏は、行動観察調査で、お年寄りがドラッグストアをたんなる買い物の場ではなく、コミュニティのハブとして使っていることなどを発見したというエピソードを披露し、消費材が生み出す「コト」のデザインの可能性を示唆しました。

アマンダ氏は、2025 年には 65 歳以上の人口比率が、英国で 20%、日本では 33%に達するというデータに加え、高齢社会でのセクターを超えたコラボレーション領域として、(1) 高齢化対応住宅、(2) サービスにアクセスするためのモビリティ、(3) 健康とソーシャルケア、(4) 世代を超えて働けるシルバーエコノミー、(5) パーソナルファイナンス、の 5 領域を示しました。

関係性：立場を超えた関係性の構築

続いて、サクセスフル·エイジング社会を「素敵に年をとれる社会」と置き換え、この社会を実現する為に、個人として、また企業として何ができるのかについて参加者同士で話し合いました。各テーブルでは、コミュニティとの関わり方についてなど、様々な意見が飛び交いました。これからの働き方はどうあるべきか（世代によって働き方の違いがあっても良いのはないか）や、職場と家庭というチャンネルだけではなく、その他のチャンネルも必要なのではなど、退職後に地域社会とつながり続ける為に、今から何が準備できるのか、またどのようなイノベーションが必要なのかについて、様々な立場から対話しました。

問い 1：世代と地域を超え、どう『つながりという身近さ』を広げていくのか？
問い 2：『助けて』が見える仕組みとは？
問い 3：何かしたいというコトで繋がる仕組みをどう作るのか？
問い 4：人によって違う『幸福感』をどう共有するのか？
問い 5：多様な価値観や生き方を許容する社会をどうつくるのか？
問い 6：年齢に関係なく、生き方 / 仕事の選択肢をどう広げていけるのか？
問い 7：あらゆる世代が楽しく暮らせるコミュニティータウンをどう提供できるのか？
問い 8：今の仕事の他に、どう地域に貢献できるキャリアを築けるのか？
問い 9：2030 年、あなたの家族は誰ですか？新たな家族の定義とは？

表 1：9 つのパワフルクエスチョン

深化：「問い」を自分事にして深める

その後さらに時間をとり、各テーブルで出てきた意見やアイデアをより深め、「テーマ領域」と、そのテーマでの「パワフルクエスチョン」をつくるというワークを行いました。パワフルクエスチョンとは、「これは不可欠だ」とチームメンバー自身が感じる、フレッシュな切り口の問いです。このねらいは、高齢社会の課題をより多くの人に自分事で考えてもらえるようにするためです。魅力的な問いは、多くの解決法のアイデアを喚起します。

創発：いままでにはない発想でアクションが起きる

その結果、9 つのパワフルクエスチョンが生まれました。(表 1)

これらの発表を受けて、Volans アマンダ氏は、「すべてのチームがソーシャルインクルージョンに懸念を感じていることに驚いた」、とコメントしました。それほど震災後の日本人の中には、社会的なつながりに対する強い願いが広がっているのだと思います。今後のフューチャーセッションを通じて、甚大な災害から立ち直った日本が、どのような社会イノベーションを起こして行くか、英国も注目していくことになるでしょう。

Spotlight

Futures の第一回フューチャーセッションは、「社会イノベーション × サクセスフル・エイジング」という、きわめて広いテーマからのスタートとなりました。この日のねらいは、参加者一人ひとりが、このテーマをまず自分事で捉え直すこと。次に、このテーマを自分の会社や組織の解決すべき課題として認識できるようになることでした。結論から言えば、各個人が自分事になるところまでは行きましたが、参加者の会社や組織の解決すべき課題としての認識までは行かなかった、といえるでしょう。

今回のアウトプットである 9 つの問いを検証してみると、助け合いやつながりをもっと広げて行きたい、多様な生き方・働き方を認め合いたい、という個人的な願いがあふれたものになりました。次表に、9 つの問いを 2 軸で分類したものを示します。(表 2) ここで問うべきことは、2025 年に私たちの意識が変わることは、企業や市場にどんな影響を与えるのだろうかということ。もう一つは、2025 年までの私たちのライフとワークの行動環境の変化は、企業にどんな影響を及ぼすのだろうかということです。

	意識が変わる	**行動環境が変わる**
つながりの拡張	1. 身近の概念が変わる 3. したいことで繋がる 9. 家族の定義が広がる	2.「助けて」の見える化 7. 世代を超えた暮らしの場
多様性の尊重	4. 異なる幸福感の共有 5. 多様な生き方の許容	6. 生き方／仕事の選択肢 8. 地域での多様なキャリア

表 2 : 9 つの問いの分類

意識の変化は、公共サービスの選択、可処分所得の使途に大きな影響を与えるでしょう。商品やサービスが、グループやコミュニティを形成するプロセスとして提供される可能性があります。また、個別のニーズにカスタマイズされた商品やサービスが、より増えるということでもあります。企業は、この価値観の変化にどう応えて行くことができるでしょうか。

行動環境の変化は、ライフとワークの両面で起きます。ライフでは助け合いを促進する仕組みづくりが、ワークでは年をとっても地域で役割を担える仕組みづくりへの期待があります。企業は、雇用対策も含め、どのように助け合いを促進する仕組みを構築していけるのでしょうか。

今回のフューチャーセッションでは、企業として、どのように価値観の変化や新たなニーズに応えて行くか、といった対話を十分に行うことはできませんでした。第二回以降のフューチャーセッションでは、コアパートナー企業が自らの問題意識で課題を設定し、その視点から多様なステークホルダーが対話を行います。自分事から生まれた、この９つの問いを企業がどのように自らの課題として展開していくのか、あるいは事業として解決して行けるのか、今後の展開が楽しみです。

デザイン : hereticanthem co.,ltd.
発行 : ブリティッシュ・カウンシル / 株式会社富士通研究所 / 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター (GLOCOM) / 株式会社フューチャーセッションズ
2012 年 9 月 1 日発行　本書の無断複写・複製・転載を禁じます

© 2012 British Council, Fujitsu Laboratories ltd., Center for Global Communications, International University of Japan, Future Sessions

BRITISH COUNCIL　GLOCOM　FUJITSU　Future Sessions